様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　 ５ 月 １６ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０２２１４

研究課題名（和文）中観帰謬派の出現とその思想伝承

研究課題名（英文）The rise of Prasangika-Madhyamaka and transmission of its thought

研究代表者
吉水　千鶴子（Yoshimizu, Chizuko）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：１０３６１２９７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：インド大乗仏教の一学派である中観派は「帰謬派」と「自立論証派」に分けられるが、その区分を行ったのは、11世紀後半にカシミールで学んだチベット人学者パツァプ・ニマタクであることが、彼の著作『根本中論般若釈』の解読により確認された。本研究は、その意図が、8世紀の中観学匠にしてチベットに仏教を伝えたシャーンタラクシタとカマラシーラ師弟が構築した仏教内外の諸学説を批判し、その最高位に中観学説があることを論証する方法に倣いながらも、パツァプが翻訳してチベットへ伝えたチャンドラキールティ（7世紀）の中観帰謬派の学説を彼らの自立論証派説よりもさらに上位にあることを証明しようとしたことにある、と明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、未解読のチベット語手書き写本であるパツァプ・ニマタク著『根本中論般若釈』とその弟子シャン・タンサクパ著『中観明句論釈』を資料として用い、それまで伝承に頼ってきた帰謬派の出現とその背景を明らかにした点で、学術的意義は大きい。帰謬派の創始者とも言えるパツァプが、チャンドラキールティの著作をチベット語に翻訳しながらその学説をそれまでチベットで尊重されてきたシャーンタラクシタとカマラシーラの中観学説と区別し、自分はチャンドラキールティに従う中観帰謬派であるという自覚を持って、帰謬という名称の由来である帰謬論証を、新しい論理学を用いてアップデートしたことの解明も重要である。

研究成果の概要（英文）：The Madhyamaka, one of Indian Mahayana schools, is divided into Prasangika and Svatantrika lineages. This division is reported to have been made by the Tibetan scholar Pa tshab Nyi ma grags, who studied in Kashmir in the late eleventh century, and confirmed correct by reading his work entitled dBu ma rtsa ba’i shes rab kyi ti ka. This study has clarified that Pa tshab intended to demonstrate the superiority of the Prasangika tenet of Indian master Candrakirti (7th cent.), whose works Pa tshab translated into Tibetan language, to the Svatantrika tenet of Santaraksita and Kamalasila from the eighth century, following their method of critically investigating Buddhist and non-Buddhist theories and proving the supremacy of Madhyamaka theory.

研究分野：仏教学　チベット学

キーワード：チベット仏教　中観思想　カシミールの仏教　中観帰謬派　中観明句論　帰謬論証　他生の否定　中論

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

大乗仏教の学派である中観派は、チベットの伝承によって「自立論証派」と「帰謬派」に区分されてきたが、その思想的区分の創始者ともされるチベット人学者パツァプ・ニマタク（11～12 世紀）の著作『根本中論般若釈』（47a22）で、彼は「私、帰謬派は」と名乗っていることが確認された。彼の「帰謬派」としての自覚は、彼の共訳者の１人でカシミールの学者マハースマティと共有され、インド由来の解釈が反映されている。その背景には、ナーガールジュナ（2 世紀）の『中論』を帰謬論証にもとづいて解釈するチャンドラキ―ルティ（7 世紀）の思想が脚光を浴びてきた影響があり、チャンドラキールティの著作をチベット語に翻訳したパツァプが、その思想を受容して広めようとした意図が推測される。2006 年以降の『カダム文集』写本影印版の出版により『根本中論般若釈』などのパツァプの著作、その弟子シャン・タンサクパの『中観明句論注釈』の手書き写本の解読ができるようになり、12 世紀にカシミールからチベットへの思想伝承の詳細の解明が期待されるところであった。

## ２．研究の目的

本研究は、パツァプがどのような思想環境の中で「帰謬派」の自覚を持ち、帰謬派とはどのような思想を持つと考えていたのか、そして彼と彼の弟子たちがそれをどのように伝承したのか、を解明することを目的とした。それにより、チベットへのテキストと思想伝承の実情を具体的に明らかにすることを目指した。

## ３．研究の方法

まず次の文献資料の解読を基礎作業とした。

『カダム文集』第 11 巻所収のパツァプ著『根本中論般若釈』（*dBu ma rtsa ba'i shes rab kyi ti ka* 52 葉）、『明句論釈』（正確なタイトルは『明句論の難解な点の解説』*Tshig gsal ba'i dka' ba bshad pa* 35 葉）、シャン・タンサクパ著『中観明句論註釈』（*dBu ma tshig gsal gyi ti ka* 99 葉）のチベット語手書き写本。

その内容を精査し、パツァプがどのようなインド人学者のテキストや思想を参照し、また批判しているのか、を考察するため、インドの中観論書であるナーガールジュナ著『中論』、チャンドラキールティ著『中観明句論』、シャーンタラクシタ『中観荘厳論』、カマラシーラ『中観光明論』を参照した。

議論に際して写本の該当箇所を校訂し、日本語または英語に翻訳し、その１部を出版した。

## ４．研究成果

新しく得られた知見は以下の通りである。

１）中観派における「他生の否定」の論理の歴史的変遷：インドにおいてナーガールジュナとその註釈者たちの時代、7 世紀頃までは「事物がそれ自身とは他の因縁によって起こる」という考え方は主に部派仏教や瑜伽行派によって説かれており、中観派は彼らの教説と対峙していた。しかし、時代と共にその範囲は拡大し、因果関係を設定する認識を論じる仏教徒、非仏教徒すべてに対して中観派は自らの伝統説である「不生・他からの生起の否定」を擁護せねばならなくなった。この歴史的展開の最後にチベットのパツァプの帰謬論証による論理があることを明らかにできた。

２）パツァプが考える「帰謬派」とは、ナーガールジュナの『中論』の教説は実在論を説く学説をその不合理を指摘して否定する「帰謬論証」を含意するものであると解釈する中観派であり、実在論の否定を自説として推論式を用いて確立しようとする「自立論証派」に対峙するものであることを確認した。また、帰謬論証を唱えるチャンドラキールティの注釈『中観明句論』に従って『中論』を理解するものが帰謬派であり、それ以前のバーヴィヴェーカの注釈に従う者は「自立論証派」として区分され、バーヴィヴェーカの注釈にもとづいていた『中論』理解が、パツァプの時代にチャンドラキールティの注釈にもとづくものへとシフトしたと推測される。

３）パツァプは「帰謬論証」のスタイルを、チャンドラキールティのものから彼の時代に即した

ものへとアップデートした。すなわちダルマキールティ（7 世紀）論理学に依拠して発展した最新のものに定義し直した。
４）パツァプが自ら「帰謬派」の学派名を名乗ったのは、先行する8世紀の中観思想家でチベットに仏教思想を伝えたシャーンタラクシタ、カマラシーラ師弟の思想と自らの立場を区別するためであった可能性が明らかになった。彼らは自立論証を用いる「自立論証派」と見なされ、パツァプはこれとチャンドラキールティの思想を対峙して帰謬派と自立論証派という中観派の区分を行い、自らを「帰謬派」と呼んだと考えられることが明らかとなった。
５）パツァプはシャーンタラクシタ、カマラシーラ師弟と対抗するために帰謬派の論理を確立しようとしたが、そのモデルは彼らの著作であり、彼らの論証方法であった。本研究により、パツァプが、彼らが他の学説を批判し、中観学説を最高位に位置付けた方法に倣いながら、さらにその上に帰謬派の学説を置こうとしたことを明らかに示すことができた。
６）パツァプの弟子シャン・タンサクパは、『中論』が帰謬論証を含意するものであることを実証するために、実際にナーガールジュナの偈を論証式に組み立てて示し、そこに最新の論理学の知見を盛り込んで帰謬論証をさらにアップデートしたことが具体的に確認された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Yoshimizu Chizuko | ４．巻<br>68-3 |
| ２．論文標題<br>Updating Prasangika and prasanga | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>Journal of Indian and Buddhist Studies | ６．最初と最後の頁<br>1193-1199 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉水千鶴子 | ４．巻<br>69-2 |
| ２．論文標題<br>中観派における他生否定の歴史的展開－カマラシーラによる転換点－ | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>印度学仏教学研究 | ６．最初と最後の頁<br>868-873 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　2件／うち国際学会　3件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>吉水千鶴子 |
| ２．発表標題<br>帰謬派と帰謬論証 |
| ３．学会等名<br>日本印度学仏教学会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>YOSHIMIZU Chizuko |
| ２．発表標題<br>Revisiting the Tenth Chapter of the Samdhinirmocanasutra: A Scripture on Rational Reflection |
| ３．学会等名<br>International Conference: Evolution of Scriptures, Formation of Canons. Tokyo Campus of the University of Tsukuba.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>YOSHIMIZU Chizuko |
| ２．発表標題<br>Non-arising (anutpada): The Madhyamikas’ challenge to the theory of causality |
| ３．学会等名<br>Linguistic Challenges: Madhyamikas and their Key Words. International College for Postgraduate Buddhist Studies.（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>YOSHIMIZU Chizuko |
| ２．発表標題<br>Lecturing Madhyamaka in Kashmir and Tibet |
| ３．学会等名<br>International Workshop with Young and Senior Scholars: Translating and Educating: the Transmission of Indian and Buddhist Texts and Thought. Tokyo Campus of the University of Tsukuba. |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>YOSHIMIZU Chizuko |
| ２．発表標題<br>Updating Prasangika in Kashmir and Tibet |
| ３．学会等名<br>Lecture: Austrian Academy of Sciences, Institute for the Cultural and Intellectual History of Asia（招待講演） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>吉水千鶴子 |
| ２．発表標題<br>チベット語訳による思想伝承の背景－翻訳と教育－ |
| ３．学会等名<br>第62回国際東方学者会議（招待講演） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Yoshimizu Chizuko |
| ２．発表標題<br>Later Madhyamikas on logic implicit in MMK I.3 or the negation of arising from other |
| ３．学会等名<br>International Workshop: Candrakirti and beyond. Institute for the Cultural and Intellectual History of Asia. Austrian Academy of Sciences（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Yoshimizu Chizuko |
| ２．発表標題<br>Indian and Tibetan Madhyamikas on Mulamadhyamakakarika; I.3 or the negation of arising from other |
| ３．学会等名<br>The Tsukuba-Hamburg Universities Symposium Series: Buddhist Studies Young Scholars' Workshop 2018. Hamburg |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>吉水千鶴子 |
| ２．発表標題<br>中観派における他生否定の歴史的展開－カマラシーラによる転換点－ |
| ３．学会等名<br>日本印度学仏教学会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>吉水千鶴子 |
| ２．発表標題<br>種から芽は生じるか？－仏教における「不生不滅」の思想－ |
| ３．学会等名<br>筑波大学哲学・思想学会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

〔図書〕　計3件

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>小島毅・土田健次郎・吉水千鶴子ほか | 4．発行年<br>2018年 |
| 2．出版社<br>岩波書店岩波ジュニア新書 | 5．総ページ数<br>192 |
| 3．書名<br>知の古典は誘惑する | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Yoshimizu Chizuko, Nemoto Hiroshi, Kano Kazuo | 4．発行年<br>2018年 |
| 2．出版社<br>公益財団法人東洋文庫 | 5．総ページ数<br>115 |
| 3．書名<br>Zhang Thang sag pa ’Byung gnas ye shes, dBu ma tshig gsal gyi ti ka, Part II, Studies in Tibetan Religious and Historical Texts, vol.2. STUDIA TIBETICA no.49 | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>斎藤 明、丸井 浩、下田 正弘、蓑輪 顕量、梶原 三恵子、高橋 晃一、加藤 隆宏 | 4．発行年<br>2020年 |
| 2．出版社<br>春秋社 | 5．総ページ数<br>516 |
| 3．書名<br>仏典解題事典 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

IERLP海外教育研究ユニット招致プログラム人文社会系（筑波大学）
https://ierlp.jinsha.tsukuba.ac.jp

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

| 国際研究集会 | 開催年 |
|---|---|
| International Workshop with Young and Senior Scholars: Translating and Educating: the Transmission of Indian and Buddhist Texts and Thought. Tokyo Campus of the University of Tsukuba. | 2019年～2019年 |

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|---|---|---|---|---|
| ドイツ | ハンブルク大学インド学チベット学研究室 | | | |
| オーストリア | オーストリア科学アカデミー | | | |
| 中国 | 四川大学蔵学研究所 | | | |